
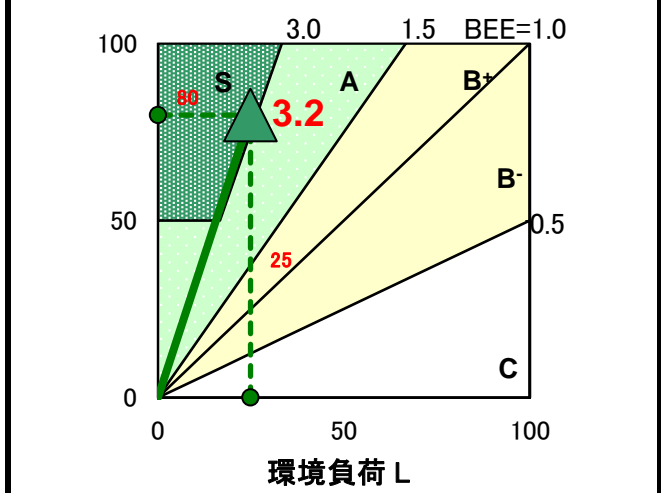
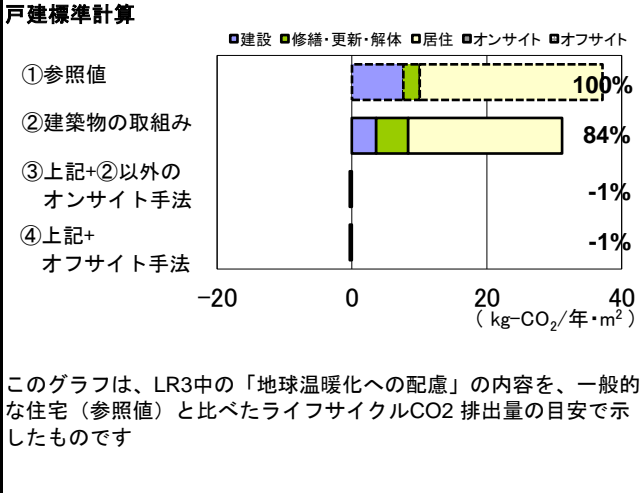

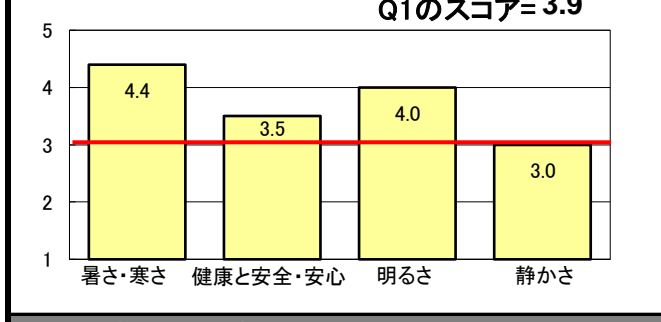
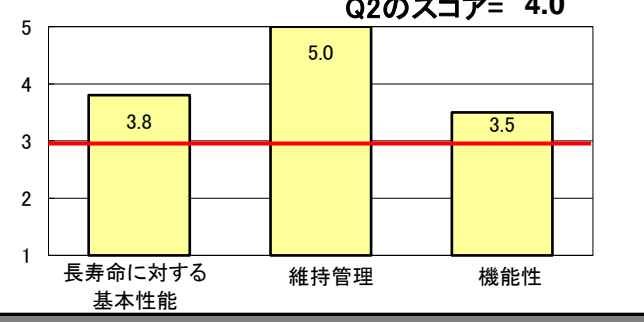
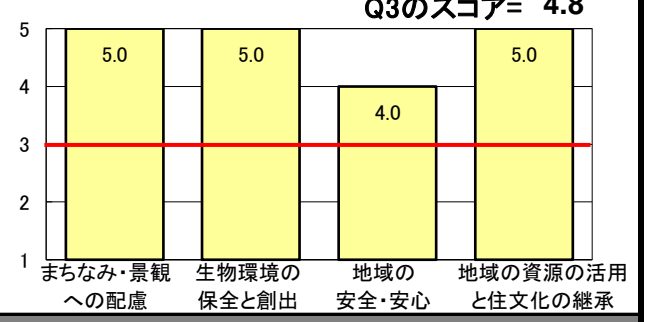
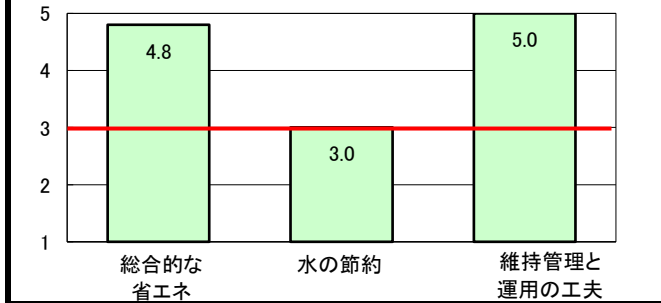
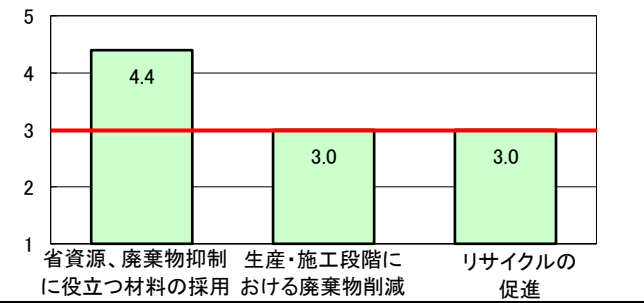
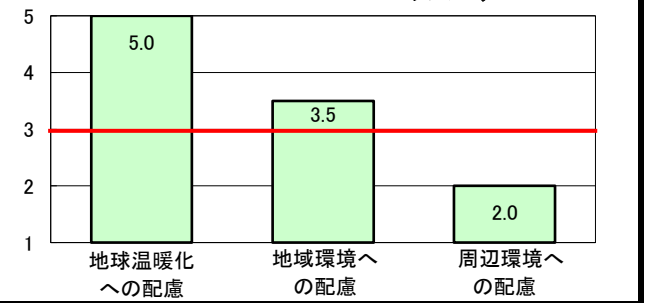


# CASBEE®-戸建(新築)SDGs対応版 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	万江様邸新築工事		仕様等の確定状況	建物の仕様 持ち込み家電等 外構の仕様	確定 確定 確定
竣工年月	2021年12月	竣工	<備考>		
建設地	熊本市中央区帯山3丁目1818-55				
用途地域	第1種中高層住居専用地域	確定			
省エネルギー地域区分	7地域				
構造・構法	木造軸組 一部鉄骨造	確定	評価の実施日	2022年5月6日	
階数	2		作成者	月原ちさと	
敷地面積	212 m <sup>2</sup>	確定	確認日		
建築面積	129 m <sup>2</sup>	確定	確認者		
延床面積	185 m <sup>2</sup>				
世帯人数	2	確定			

2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果																								
<p><b>BEE ≧3.2</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>  <p>環境負荷 L</p>	<p>★★★★★</p> <p>~0%: ★★★★★ ~50%: ★★★★★ ~75%: ★★★★★ ~100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>戸建標準計算</p>  <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 84% ③上記+②以外のオンサイト手法 -1% ④上記+オフサイト手法 -1%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	 <table border="1"> <tr><td>3(保健)</td><td>2.1</td></tr> <tr><td>4(教育)</td><td>1.8</td></tr> <tr><td>5(ジェンダー)</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>6(水・衛生)</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>7(エネルギー)</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>8(経済・雇用)</td><td>2.1</td></tr> <tr><td>9(イノベーション)</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>11(都市)</td><td>2.7</td></tr> <tr><td>12(生産・消費)</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>13(気候変動)</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>15(陸上資源)</td><td>2.7</td></tr> <tr><td>17(実施手段)</td><td>2.3</td></tr> </table> <p>* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>	3(保健)	2.1	4(教育)	1.8	5(ジェンダー)	2.0	6(水・衛生)	2.0	7(エネルギー)	3.0	8(経済・雇用)	2.1	9(イノベーション)	3.0	11(都市)	2.7	12(生産・消費)	2.6	13(気候変動)	2.5	15(陸上資源)	2.7	17(実施手段)	2.3
3(保健)	2.1																									
4(教育)	1.8																									
5(ジェンダー)	2.0																									
6(水・衛生)	2.0																									
7(エネルギー)	3.0																									
8(経済・雇用)	2.1																									
9(イノベーション)	3.0																									
11(都市)	2.7																									
12(生産・消費)	2.6																									
13(気候変動)	2.5																									
15(陸上資源)	2.7																									
17(実施手段)	2.3																									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Qのスコア = 4.1</p>		
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b></p> <p>Q1のスコア = 3.9</p>  <p>暑さ・寒さ 健康と安全・安心 明るさ 静かさ</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b></p> <p>Q2のスコア = 4.0</p>  <p>長寿命に対する基本性能 維持管理 機能性</p>	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b></p> <p>Q3のスコア = 4.8</p>  <p>まちなみ・景観への配慮 生物環境の保全と創出 地域の安全・安心 地域の資源の活用と住文化の継承</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LRのスコア = 4.0</p>		
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b></p> <p>LR1のスコア = 4.5</p>  <p>総合的な省エネ 水の節約 維持管理と運用の工夫</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b></p> <p>LR2のスコア = 3.8</p>  <p>省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用 生産・施工段階における廃棄物削減 リサイクルの促進</p>	<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b></p> <p>LR3のスコア = 3.5</p>  <p>地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>石油製品の仕様を極力抑え、自然素材を生かした設計とした。景観や周辺環境に配慮し、外壁の色を土色にし、外構に用いる塀は木格子で行い、落ち着いた佇まいとした。また、敷地いっぱいに建物を配置するのではなく、道路面の圧迫感が無いよう、庇を設けた。敷地北側の住宅の日照に配慮し、片流れ屋根に比べ、太陽光発電パネルの搭載可能面積が減少するが切妻屋根とし、また建物高さも極力抑えた。</p>	<p><b>その他</b></p>	
<p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b></p> <p>断熱性に配慮し、BELSのZEH基準に適合する仕様とした。LDKは木製サッシ、LDK、廊下の壁は、チャフウォール、寝室は和紙クロス、LDKに大工の手刻の化粧登梁を取り入れ、室内環境の快適・健康・安心・温もりに配慮した。</p>	<p><b>Q2 長く使い続ける</b></p> <p>長期優良住宅に適合し、耐震等級3を満たす構造とすることで、住宅の耐久性を確保した。経年美を楽しめるよう、床材に、木の無垢板を使用した。LDK及び廊下の壁は、施工主自ら補修が行える素材とした。</p>	<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b></p> <p>外部の色彩は周辺環境との調和を図り、接道部に杉板の木塀を用いて、設備機器を目立たなくし、景観への配慮を行った。2階バルコニーは一部庇とし圧迫感を抑え、大屋根は太陽光パネルを搭載しているが切妻屋根とし北側住戸に配慮した。</p>
<p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b></p> <p>太陽光発電を搭載し、再生化のエネルギーを創出している。電気自動車を蓄電池とし、太陽光発電の余剰分のストック、非常用電源として計画とした。照明計画では、全てLEDライトとし、適切にセンサー付き照明を用いることで、省エネルギー化を図った。</p>	<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b></p> <p>構造材には、国産材である桧、杉、赤松を用いた。外装及び内装は仕上材、下地材共に地域材やリサイクル材等を使用し、省資源、廃棄物抑制に配慮した。</p>	<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b></p> <p>生ゴミ処理機を設置し、また分別ごみのストックスペースを合計2ヶ所確保した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)